

人間関係学部 人間福祉学科

以下の「賛成・反対」両派の意見を聞いて、あなたはどちらの考え方に賛成ですか。他説を批判し、自説の根拠をあげながら、800 字程度で自分の考え方を述べてください。

本部分については
著作権上の制約により
掲載することができませ
ん。

【 エレベーター設置反対派の意見 】

- （１）「木造建築のフルオリジナル」というのは、市長選挙の際の公約でもあったのだから、この点については既に市民の承認を得ているといえる。
- （２）戦前に国宝に指定されていた重要な文化財を再建するのだから、史実に忠実なフルオリジナルでなければ、歴史的価値や観光資源としての価値が大きく低下してしまう。
- （３）車イスであっても少なくとも 1 階までは登れるのだから、決して障害者を排除することにはならない。
- （４）建造当時の木造のオリジナルのまま残っている姫路城などについては、障害者団体もその文化的な価値に敬意を払って、さすがに「エレベーターを設置せよ」という要求をしていないのだから、今回の名古屋城もそれと同じに考えるべきではないか（掛川城や白河小峰城など、最近木造で再建されたところは、すべてフルオリジナルにこだわってエレベーターは設置していない）。

【 エレベーター設置賛成派の意見 】

- （１）戦後にコンクリートで建造された国内の他の天守閣のいくつかには、エレベーターが設置されているし、名古屋城も戦後にコンクリで再建されたときには 3 基のエレベーターが設置されていたではないか。
- （２）「フルオリジナルでの復元」といいながら、家康の時代になかったスプリンクラーや避難口は設置されるのだから、「エレベーターだけ付けない」というのは理屈にならない。
- （３）税金で建設する公の施設は、すべての人にとって利用可能なバリアフリー構造とするのが、現代の要請ではないのか。エレベーターなしの再建では、障害者差別解消法に明確に違反することになる。
- （４）「家康の時代のオリジナル」にこだわるのではなく、21 世紀の今の思想を反映した建築物を作るのが、本当の意味での「文化財の再建」ではないのか。

出典：朝日新聞（東京版）2019 年 1 月 15 日号掲載「天守へのエレベーター激論」